

# すぐに取り組める安全対策のご紹介

～緊急点検回答及び回答についてのヒアリングから～

※本資料は令和4年10月の「子供のバス送迎・安全対策講習会第1回」からの抜粋資料です。



# ①-1 送迎バスの運行時の取り組み（置き去り防止）

当日の乗車名簿を作成し、名前や人数と突合

座席を決める等、本人確認をしやすい環境づくり

複数職員で声出しなど、確実な点呼を実施

正確な情報に基づき、  
確認しやすい状況を作り、  
複数人で確認

## 【ご回答内容】

- 便数ごとに名簿を作成し、バス乗降時に子供の人数や名前等を、複数の職員でダブルチェック。
- 名前と人数を名簿で突合するとともに、バス停の番号が記された座席に座る。
- 乗車前に子供を並ばせ、点呼・人数確認を行い、バス名簿順の座席に座る。
- バス経路順に名簿を作成し、子供の乗車順に後方から座席に座る。（年度初めに保護者に乗車順を伝えている。）降車時は、前方から順に降りる。また、全員が降りた後、バス乗車担当が、後方から座席の消毒、忘れ物の確認を行う。
- 降車時に人数等を確認する際、降車に携わる全ての職員間で声に出して点呼

# ①-2 送迎バスの運行時の取り組み（置き去り防止）

バス乗降アプリや出欠確認アプリの活用

バス内に無線通信機を搭載



正確な情報をリアルタイムで共有できるシステムの導入

## 【ご回答内容】

- バス乗降アプリから当日のバス利用の有無を示したコース表を印刷し、出欠確認
- バス予約システムで当日、利用する子供を把握し、名簿を作成
- 出欠連絡やバス乗車の有無を出欠確認アプリにより職員間で共有・確認できるようにしている。
- バス内に無線通信機を搭載しており、園事務室との間で急な欠席連絡や乗降場所変更等の連絡を取り合うことができる仕組みを取っている。

## ② 降車後の再確認の取り組み（見落とし防止）

複数の職員が個別に車内確認

清掃や消毒など、他の業務を兼ねた再確認

点検実施済の可視化



複数の目で複数回の確認が無理なくできるよう、業務手順に組み込む

### 【ご回答内容】

- 降車時に加え、降車後の車内確認を計3回行う。（保育士が1回目・運転手が2回目、最終消毒に戻ってきた保育士が3回目）
- 園児降車後に、忘れ物確認とともに全座席の清掃・消毒を行い、その際にも車内全体を確認している。
- 園児がバスを降車した後の車内最終確認後、「安全点検済」の表示をバスに掲示し、可視化している。
- 保育開始時や場面の切り替えのタイミングで必ず点呼や名簿との突合により確認している。

# ③ 組織としての情報連携の取り組み(組織的な安全対策)

何事も、担当職員以外にも共有

子供一人一人を認識し、寄り添う姿勢

ホワイトボードやマニュアル・掲示物での可視化



日頃から職員同士が情報を共有することで、異変に気が付きやすくする

## 【ご回答内容】

- ヒューマンエラーが起こることを前提に、バス運用に限らず何事においても二重、三重に確実に行うよう努めている。
- 普段バス乗車を行わない職員にも確認手順等を周知している。
- 乗降の確認は、人数の把握だけにとどまらず、子供一人一人をしっかり認識し、個性や性格を理解して寄り添う姿勢が、とても大切
- バス運用に限らず確認方法や情報伝達方法をマニュアルや掲示物で可視化し、職員間で定期的にルールを確認している。
- バス当番の職員が、当日のバス乗車人数や降車人数などの報告事項を各クラスのホワイトボードに記入し、職員間で共有

## ④ 万が一の時のための備え（子供に対する取り組み）

子供でも扱える警報機器の設置



すぐできる備えに加え、  
ヒューマンエラーを補う安全  
装置の設置が今後義務付  
けられる

### 【ご回答内容】

- 車内昇降口付近に紐を引くタイプの市販の防犯ブザーを取り付けており、非常時には紐を引いて知らせるよう、子供に周知している。
- 車内昇降口付近に非常用ボタン（市販、子供でも押せる大きめのもの）を設置し、ボタンを押すと職員室内で非常ベルが鳴る仕組みにしており、子供に周知している。

## ⑤-1 ヒヤリハット事案からの気づき

### 【事案①】

登園時のバスから園児を降ろした際、添乗に不慣れな職員がバス全体を確認せず、寝ていた園児を見逃した。バスを移動させた際に園児が目を覚まし、事故には至らなかった。



(気づき) 全職員が確認手順等を正しく認識することが大切  
職員に対する研修等においてヒヤリハット事案や確認手順の共有が必要

### 【事案②】

登園時のバスから園児を降ろした後、運転手による最終確認時、寝ていた園児を発見し、事故には至らなかった。



(気づき) ダブルチェックが漏れれば事故につながる恐れがあった。  
園児降車時に複数職員で確認を行うこと等により、事故を未然に防ぐ効果が高まる。

## ⑤-2 ヒヤリハット事案からの気づき

### 【事案③】

- ・バス内で嘔吐した子がいたことに気を取られ、降車時、園児の見落としがあった。運転手による最終確認時に発見し、事故には至らなかった。
- ・登園時のバスから園児を降ろした後、行事の開催に伴い、通常と違う場所にバスを停めた際、園児の降ろし忘れが発生。車内の園児に気づいた職員が発見し、事故には至らなかった。

↓

(気づき) 普段と違う動きが生じた際ほど事故につながる恐れがある。  
場所や状況が変わっても確認手順を漏れなく、複数名で行うことが大切

### 【事案④】

保護者からバス降車場所変更の連絡を受けていたが、変更前の降車場所で降ろしてしまった。

↓

(気づき) 情報伝達ミスや伝達漏れによるもの。連絡や情報伝達のルールを設け、ダブルチェック等を行うことが有効



## ⑥ 毎日使えるチェックシート（国の例示）等

### 【日々の送迎時における見落とし防止】

- ・ 運転席に確認を促すチェックシートを備え付けるとともに、車体後方に子供の所在確認を行ったことを記録する書面を備える。

### 【こどものバス送迎・安全徹底マニュアル】

- ・ 送迎用バス運行に当たっての各園での取組の補助資料として国が作成
- ・ バス送迎の業務の流れに沿ったポイント等を整理

※マニュアルは以下のHPに掲載されていますので、ご活用ください。  
（右記のチェックシートも、wordファイルで掲載しており、各施設の状況に応じて編集可能です。）

[https://www8.cao.go.jp/shoushi/shinseido/meeting/anzen\\_kanri.html](https://www8.cao.go.jp/shoushi/shinseido/meeting/anzen_kanri.html)

### チェックシートの活用例

10月1日(月): **登園** / 降園

- 同乗職員は、バスに乗る こどもの数を数えた。
- 同乗職員は、バスから降りた こどもの数を数え、全員が降りたことを確認した。
- 同乗職員は、連絡のない こどもの欠席について、出席管理責任者に確認した。
- 運転手は、バスを離れる前に、車内に こどもが残っていないことを、椅子の下まで見落としがないか見て、確認した。

運転手: \_\_\_\_\_

同乗職員: \_\_\_\_\_

上記報告を受けた: \_\_\_\_\_